

第2回 直江津地区中心市街地活性化協議会準備会 議事要旨

日時：平成20年1月21日(月) 14:50～16:00

場所：上越商工会議所3階大会議室

出席者：別紙名簿参照(出席者32名(代理3名)、服部氏、市担当職員6名、会議所担当者5名)

議事要旨

1. 会頭あいさつ

2. 協議会会長あいさつ

3. 協議会規約の一部改正について

資料を基に説明

第3章役員第16条事務局の記載において、株式会社まちづくり上越を加えることを説明。承認された。

これに伴い、1月21日付けで、改正をする旨、附則で追記することも了承された。

4. 検討内容及び意見交換

上越市直江津地区中心市街地活性化基本計画(案)の説明

上越市中心市街地活性化推進室：折橋室長から、資料(「二つの中心市街地」「高田地区中心市街地活性化のための基本方針」)に基づき説明。

上越市直江津地区中心市街地活性化基本計画(案)の主な事業の取り組み状況について報告

上越商工会議所：渡部次長から、資料(「上越市中心市街地活性化事業進捗状況」)に基づき説明。

直江津地区について意見交換(：委員、：上越市担当者、：服部アドバイザー)

通行量について、現状数値を示しているが、年代別で分析しているのか？

年代別には統計をとっていない。平日と休日で分けて通行量を把握している。平日の方が多いため、高校生が利用する割合が多いと考えている。

駅利用は、駐車場の問題にもつながる。直江津では、駅南の駐車場利用は出張者が多く使っているため、図書館の利用者はあまり使えないのではないかと？

駐車場は大きな課題の一つ。駅南駐車場のほか、民間駐車場で250台程度あるが、駅利用者でほぼ満たされる。直江津のワークショップでも検討する予定なので、意見を聞きながら進めていきたい。

駅の乗降客が1日2千人台というのはあっているのか？

直江津駅のほうが、高田駅より若干多いくらいで、直江津駅はビジネスのお客が多い。乗り換え人数を入れれば増えると思うが、データはない。

駅利用者の数値で、少ない人数を提示したのに意図はあるのか？

乗り込み人数が適当と思って掲載した。委員の意見を聞きながら、精査していきたい。

直江津も地元で事業検討を進めていく。バスが郊外に向けて走ることを、市がPRしているのは疑問。市も横の連携を密にして、そのようなことが無いようにしてもらいたい。

駅や図書館から、海につなげていくことを考えていきたい。互の市を全天候型施

設にすることや、船見公園の整備やステージの活用、鮮魚センターと食事処など、市で取り上げ、協議会で協議してもらいたい。

いくつかの要望が出たが、まずは地域の行動が重要ではないか？実行可能なところから取り組んでもらいたい。

直江津の数値目標で、駅利用者や人口が減少なのに、なぜ歩行者は増えるのか？拠点施設や統計データから算出した。

図書館は市で管理していくのか？また、利用者の増加が見込まれる施設計画があるのか？駐車場があることは、利用者増につながると思うが、考えていくのか？機能については、図書館のあり方検討会で検討した。今まで、利用できなかった方々も、駅前に移設することで、公共交通機関を利用していただき、図書館利用者増を図れると考えている。

図書館等の施設機能が非常に重要。活用の仕方を良く考えてもらいたい。

上教大で、生涯教育や子どもの教育を含めて、出先教室等の可能性はあるか？

地域連携として、市民の要望があれば、お互いに協力していきたい。

社会教育館でサークルの発表場所を考えている。上教大にも、月一回でも出張講座等をお願いし、基本計画に掲載したい。

駐車場について、空地がたくさんあるので、借りる方向で検討してもらいたい。

数値目標では、夜の店舗利用者数が増えることを、どのように考えているのか？飲食店の数もデータとして入れられる。

レインボーセンターと社会教育館の機能が重複するので整理をしてもらいたい。

レインボーセンターは主に貸会場の利用、社会教育館は貸会場と行政の関与がある事業やサークルの発表の場等住み分けができると考える。

人の流れを作るために、病院なども必要であるが、行政の機能も重要。北出張所を駅前に再配置できるか？

行政機能の再配置は難しい。拠点を結ぶ、コミュニティバスの運行を内部で検討している。

目標数値が小さい。このような小さい目標で国から認可をもらえるのか？大きな目標を掲げた方が良いのではないか？

国からは、数値の根拠を求められており、提示した数値は、事業の積み上げによって算出した目標数値である。民間から事業を更に出してもらえれば、更に積み上げていきたい。

地域に住む人たちに利便性を与え、訪れる人々に魅力を感じてもらうことを目的に、地域の人たちがどのように取り組むかが、中心市街地活性化基本計画を推進していく。一つの幹に枝をつけ、中小の木をつなげ、森にしていくことが、中心市街地活性化の戦略的考え方である。

二つの中心市街地の役割分担を明確にし、更に連携を図っていかなければならない。

直江津は、海にこだわり、事業に取り組んでいくことで、役割分担にもつながる。図書館については、海や魚、また海に関わるスポーツ等の蔵書にこだわることも良いのではないか？それに係る、イベントや講演も効果的。水族館やビーチバレーにもつながっていく。また、ビーチバレーの全天候型コート在未利用施設で考えてもいいのではないか？

選ばれた計画には責任が生じる。提案した事業は、必ず実行しなければならない。目標数値は、放っておけばマイナスになるので、0ベースでも大変な目標。計画が認定されたところは、協議会に市長や副市長が1~2回は出席している。また、市民が行動をおこし、更に市民の意見を幅広く聞いているところであり、国はこれらを重視している。市の縦割りでは、何も進まない。プロジェクトで動き、会議所等と連携をしていくこと。

協議会会長より；

服部アドバイザーの言葉に集約される。地域が実行していかなければ、まちづくりは長続きしない。今後ともご協力をいただきたい。

以上、議事を終了した。